

帰ってきた静岡大学大会

2010年2月28日 静岡県静岡市

静岡大学
村越真

約10年ぶりの歳月を経て、
静岡大学大会が帰ってきた。

静岡大学大会
2010年2月28日 静岡県静岡市

帰ってきた静大大会

約10年ぶりの歳月を経て、静岡大学大会が帰ってきた。ただし、静岡と言って思い描く富士のトレインではなく、静岡大学の静岡キャンパスが位置する日本平西部をトレインとし、静岡大学を会場としてである。

昨今、どこの大学も部員不足に悩んでいるが、静大も例外ではない。無理な形で大会を開催し、そのスキルを蓄積しておきたい。そんな状況の中での選択が、キャンパスを会場とし、普段慣れ親しんだ裏山を使うというものであった。

静岡大学の裏山

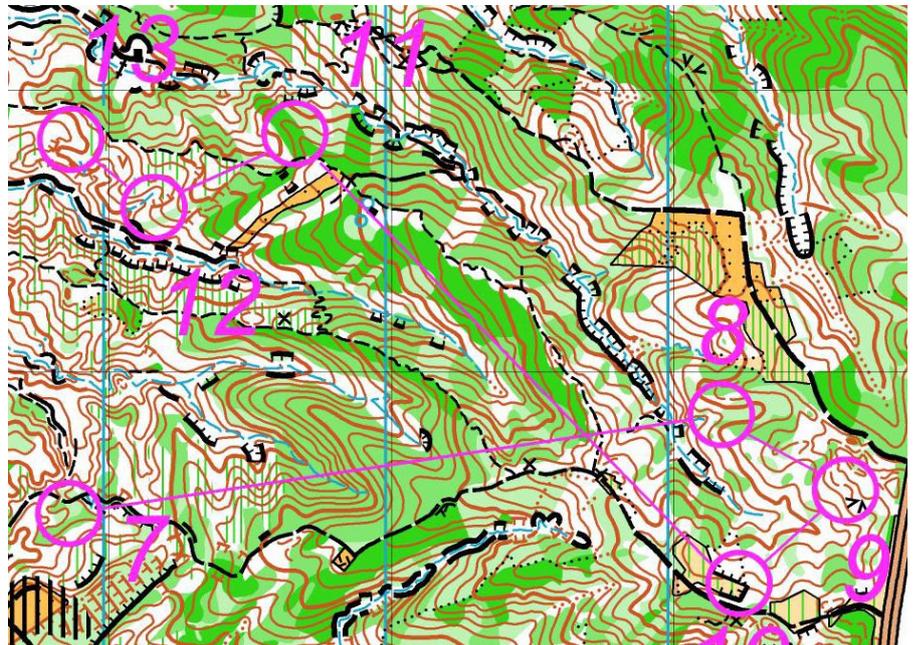
裏山といっても侮ってはいけない。一部に通行不能のシダ地帯があるものの、植林も多く、意外ときれいな林が広がっている。傾斜は急だが、地形は細かく、テクニカルなミドルコースを提供するには格好といってもいいトレインだ。OBの協力も得て、地図も十分なものができた。実際、コースもトレインにマッチしたものが用意されていた。

MA優勝の和久田も「うん、爽やかないいコースじゃないですか。このあたり（地図中央部）に尾根を越えるレグとか組めると思いますが、それだとえぐくなっちゃいますよね。うまくメリハリも効いているし」、また2位の松澤も「はじめてですが、いいトレインですね。これならもっと静大も強くなれるんじゃないですか。1回は気持ちよく走れます」と、高く評価していた。

盛り上がる参加者

参加者も当初の予想をいい方に裏切る100名を超える数が集まり、ナショナルチームの松澤選手やインカレでも上位に入る名大、梶山の大部隊、東京から参加の現役/元エリート選手など、ローカルな大会と思えないほどの充実ぶりである。

そんなレースの中で静大OB勢が活躍した。MAではナショナルチームの



▲部員の間では評判の悪い裏山もちゃんと地図を作って、いい部分だけを見ればこのとおりの立派なトレインだ。コースは、テクニカルなショートレグと大胆なロングレグのメリハリあるものが用意された。

松澤を和久田が制して1位となった。またMBでは、やはりOBの早河秀章が制して優勝。またWAでは斉藤早生が、WBでは石田美代子が優勝した。

ローカルな大会だけに、賞品もローカルだった。1位には有名な石垣イチゴが、2位には桜エビとわさびのせんべいセットが、また3位にはお茶羊羹が贈られ、最後はじゃんけん大会で、静岡ならではの賞品争奪に会場は沸いた。

この日は、併設で市民のためのスコアオリエンテーリング大会も行われた。事前の申し込みは40名を越えていたものの、当日朝方まで残った雨のため参加者は激減したが、それでも13名が雨の中来場し、役員を驚かせた。タイト姿で走ってスタートに向かうオリエンティアを見て、「すごい……」。市街地にも近い里山だからこそ、こうしたトップ選手とリクリエーションで参加した人の交流も生まれる。

静岡に寄せる波

大会は無事終了したものの、この日はチリ津波の影響で、午後13時から4-5時間にわたって東海道線、国道1号、東名高速が富士-清水間で通行止めとなった。東京組にとっては、帰宅もま

た一つのアドベンチャーだったようだ。
(村越 真)



▲（上）会場では併設の市民大会が行われた。朝方の雨にも関わらず5組13名が来場。
（下）優勝して石垣イチゴを手にした和久田（右）と石田（左）